

冷凍母乳の対応

- 「母乳育児を続けたい」という保護者の願いを実現するため、保育施設でも支援体制を整備することが大切です。
 - 母乳は細菌が繁殖しやすいため、搾乳・保存・解凍の過程で消毒や温度管理などに配慮が必要です。保育施設だけでなく保護者にも衛生的な取り扱いをお願いすることが大切です。
-

1. 保護者への依頼

希望する保護者へ別紙様式 1 により説明を行い、打ち合わせを行う。

2. 保育施設における冷凍母乳の扱い方

(1) 当日分のみを預かる。

保護者から受け取った冷凍母乳は、名前などの記入もれがないか確認を行い、すぐに冷凍庫に保管する。

冷凍庫は、常に清潔に保ち、 -15°C 以下で保管できるよう温度管理を行う。

注)保管する冷凍庫は隔測温度計を備え、決まった時間に温度の記録を行う。

(2) 冷凍母乳の解凍は、授乳直前に行う。

- ① 冷凍した母乳バッグごと水につける。(水は 2～3 回替える。)
- ② 完全に解凍できたら、母乳バッグの角とはさみを消毒し、下に切りこみを入れて哺乳びんに移す。
- ③ 40°C 前後のお湯を用意して湯煎にかけ、人肌程度に温める。

注)電子レンジや熱湯での解凍、加温は母乳成分が変化するので、行わない。

(3) 飲み残しは必ず廃棄する

(4) その他

- 施設内での取り扱い手順を定め、関連する職員で認識を共有し、体制を整える。
- 不測の事態により母乳を提供できなかった場合の対応について、事前に保護者と確認をとっておく。

冷凍母乳を希望する保護者の方へ

保育施設で冷凍母乳を取り扱うにあたり、次の点についてご協力をお願いします。

- 搾乳⇒凍結⇒保存⇒解凍⇒加温⇒授乳という過程を経るため、衛生的な取り扱いをお願いします。
- 当日分のみをお預かりします。
- 搾乳した母乳は、専用の母乳バッグを使用し、お子さんの名前・搾乳日時・量を記入してください。
- 母乳バッグをビニール袋に入れ、家庭でしっかりと冷凍してください。
- 通園途中に解凍されることがないように、しっかりと保冷をしてください。
- 冷凍母乳は、哺乳瓶からの授乳となります。乳首が変わることにより、母乳を飲まなくなることがあるため、事前にご家庭で哺乳瓶の感覚に慣れてもらうようお願いします。
- お母さんご自身の体調不良、服薬等でご心配な際は医師に相談をお願いします。

